

川波だより

卒業記念号

(64回生)

編集・発行
島田高等学校同窓会

〒427-0038

静岡県島田市稲荷
1丁目7番1号

電話 0547-37-2188

FAX 0547-35-1744

kawanami@ab.thn.ne.jp

同窓生 21,445名

在校生 484名

同窓生という「絆」



同窓会会長 鈴木善彦

あの3月11日の大震災以来、日本人の心に深く自覚された言葉に「絆」があります。

「絆」・・・動物をつなぎとめる綱」「断つにしのびない恩愛」、などと『広辞苑』には記されています。

未曾有の東日本大震災の中で、生き残った人同士の声掛けや復旧作業、見知らぬ人から届く手紙や募金、そして、ボランティアの支援活動など。それらこそ「つなぎとめる綱」であり「断つにしのびない恩愛」であります。

この度の残念な被災の中で、「よかった」点があるとすれば、人は支え合って生きている、こ

のことに日本人が改めて気付いたことかも知れません。

卒業生の皆さんは、今日からはそれぞれの道を歩み始めます。でも、島田高校同窓生としての「絆」は共有し続けます。母校が結ぶ紐帯。家族や隣近所だけでなく、同窓生のような緩やかな「絆」も、元氣や支え合う元になり得ることでしょう。いろいろな機会に再会を果たし、我が「島高」のことを語り合いましょう。2万人を超す同窓会員一同、皆さんの加入を心から歓迎します。

まずは、ご卒業おめでとう。新たな旅立ちに幸あれと、後輩にエールを送ります。



1年次合唱コンクールの成果を同窓会総会で披露

同窓会活動のご案内

同窓会では次のような事業を行っています。是非ご参加下さい。

定期総会

毎年六月祭のときに開催し、在校生のスポーツや文化活動で活躍した生徒の表彰の他、アトラクションで在校生と同窓生が交流しています。

同窓会ルームの開設

毎年六月祭（みなづきさい）のときに開催し、各界で活躍している同窓生の作品を展示し、広く市民に公開すると共に、在校生の皆さんに直接触れる機会を提供しています。

同窓生の集い

毎年8月第3日曜日頃、卒業回生ごと順番に開催し、世代を超えて同窓生同士の交流を深めています。

今年は、2の回（：22回生・32回生）の人達を中心に開催します。2年後はあなた達の番です。

同窓会報「川波だより」の発行

毎年1回発行しています。

同窓会入会に寄せて



大久保節夫さん
21回生

皆さん卒業おめでとう御座います。私は皆さんと同じ島田高校を卒業して42年目になります21回卒の大久保です。色々な流れの中で縁あって今から15年程前、島田に本社を移しビジネスを展開することになりました。駅前の当時東京海上ビルの2F、3Fを借りて12年間お世話になりました、現在は平成20年の10月に完成しました、旧ジャスコの向かいにあります自社ビルに移転しました。会社名はテクノサイトと言います。

弊社は、コンピュータのソフト開発を中心に企画、デザイン、商品の製造（おもちゃ、玩具）と幅広く手掛けております。拠点としては島田を本社にして沼津、東京、大阪、香港、中国と展開をしております。グローバルゼーションの時代を一生懸命戦っている会社です。

私もまだまだ人生半ばで勉強中です。たいしたアドバイスは出来ませんが感じていることを少しお話しさせていただきます。

卒業後は、皆さん夫々色々な環境の中へ進まれて行くと思いますが、大事なことはその環境をより理解しその中で何をしたいかを見出し、それを目標に諦めることなく

進んでいくことだと思います。そうすれば悔いの無い人生を生きられるし、上手く行けば成功する可能性もあるかも知れません。また何事にも感謝の気持ちで接して行く事が様々な局面をスムーズに乗り越えて行けるんじゃないかと思えます。私自身いつもそんな思いで日々を過ごしています。好きな言葉としては、「継続は力なり」であり何事も続けることが大切だと思っております。



豊田直巳さん
27回生

何年も、いや正直に言おう。30年以上も母校に足を踏み入れることはなかった。三年間を劣等生として、それも主目的な目的あつて選んだのでもなく、ただ、日々に怠惰をむさぼった結果であるゆえに、その後のありようも推して知るべしの人生でとても顔向けできるような立場になかったゆえのこと。郷里が忘れられないように、母校はいつもこころのどこかにあつたのだが。それが思いもかけない縁から、諸先輩方のご助力で現役の後輩の皆さんにまで私の写真をご覧になっていただき、ご挨拶

拶までさせていただく機会をいただいた。現在の日本の縮図であるような原発震災に苦しむフクシマの写真には、目を背けたくなるような日本の負の側面が含まれていたはずだが後に漏れ伝え聞いたところでは、生徒の皆さんまでもがその重たい現実にも正面から向き合ってくださいったように、嬉しい限りだ。たとえ目をつぶったからといって、そこから逃れることを許されるわけではないのだから。だが、そんな放射能汚染という逃れられない重たい現実を生み出した大人の責任を、私はどう果たしていけば彼ら、彼女らから許されるのだろうか。

2012年2月12日



鈴木謙克さん
40回生

ご卒業おめでとうございます。進学、就職など、それぞれの進路を歩み始めるときがきましたね。今後は、親元を離れて生活したり、親以外の大人と接する機会が非常に多くなります。そうなる、いわゆる自己責任というもの、みなさんに問われてきます。今まで、世間の厳しさを、親というフィルターを通して接していたのを、ダイレクトに自身で受け止めなければなりません。これは、社会生活を送る上では避けられないものです。大変ですが、



藤原誠子さん
51回生

逃げないで、周りの人の力を借りて乗り越えてください。乗り越えたときに、今までのない達成感を得て、素直に感謝することができ、自身の成長の証となります。新しい道で、一皮剥けたみなさんと、「同窓生の集い」でお会いできることを楽しみにしています。

ご卒業おめでとうございます。

思えば高校生の頃は、感情のままに行動していました。夏休み、自由参加型の数学補習に申込んでおきながら、野球の県大会が気になって球場での応援に熱中したこともありました。後悔はしていませんが、「今やりたいこと」を優先したために、「やるべきこと」のツケが自分に回ってきたことは確かです。社会人になると行動に責任が求められます。皆さんには「やりたいこと」と「やるべきこと」の優先順位を考え、状況にふさわしい行動ができる人になつてもらいたいのです。

それでも、同窓会があつたら是非「やるべきこと」は少々後回しにしてでも会に参加してみてください。規模の大小に関わらず、同窓会はその時その仲間達としか共有することのできない貴重で楽しい時間ですから。皆さんの新しい進路先での活躍をお祈りします。